

令和6年4月1日

令和6年度 学校経営方針

渋谷区立鉢山中学校

校長 白川 智恵子

1 教育目標

教 育 目 標

社会の変化に自ら対応できる、心豊かな生徒の育成を目指し、次の目標を定める。

- 挑 戦 (Challenge)
- 創 造 (Create)
- 対 話 (Communicate)

2 目指す学校像

- 1 安心して自分の個性を伸ばせる学校
- 2 豊かな人間関係の中で、新しいことを創造できる学校
- 3 家庭、地域と共に生徒を育む学校

3 目指す生徒の姿

- 1 自ら学び、考え、新しいことに挑戦する生徒
- 2 自らを律し、より良い世界を創造しようとする生徒
- 3 自他の違いを認め、お互いを尊重する生徒

4 教育の重点

- 1 STEAM (STEAM教育の推進)
- 2 GLOBAL (国際理解教育の推進)
- 3 DIVERSITY (特別支援教育の推進)

【基本方針1】 Challenge 「学力の向上」と「健全な心身の育成」

基本方針1	1	新たな学び・探究の充実	<p>①生徒が、自ら課題を見つけ、自ら考え、解決していく過程を取り入れた授業改善(教科探究)を全教科で実施する。</p> <p>②セルフラーニングや他者の考え方等を吟味することなどを通して、自分の考えを広げ深める学びを推進する。</p> <p>③HACHIアプリ等を活用し、生徒に授業の振り返りを行わせ、学習の自己調整力を育てる。</p>	
	2	STEAM教育	S	①ハチラボ、高校・大学・企業等と連携した「おもしろ理科教室」を充実させ、科学的な思考を育む。
			T	①デジタル教科書やデジタル教材、学習履歴等の教育データを効果的に活用して、「鉢山 Basic Style」を発展させる。
				②生徒が自らの学びに合わせて、主体的に道具としてのタブレットを活用する授業スタイルへの転換を図る。
				③タブレットを活用しながら、デジタル・シティズンシップ教育を推進する。
			E	①プログラミング技術を活用した授業を推進する。
			A	①朝読書、ブックトーク、デジタルブックの活用を通して、豊かな感性を育てる読書活動を推進する。
				②学校図書館を情報センターとして、「自ら調べ、考える」授業を行う。
				③新聞活用教育を更に推進する。
	④大学等と連携した法教育を推進する。			
M	⑤芸術鑑賞等を通して、豊かな感性を育てる。			
	①学習履歴等の教育データを活用し、個に応じた授業方法を工夫する。			
②東大先端研と連携した体験型授業を推進する。				
3	国際理解教育	<p>①海外交流授業等で、他国のの人々と交流し異文化理解を図り、グローバル社会で活躍できる資質・能力を育成する。</p> <p>②各教科・領域でSDGsに取組み、持続可能な社会の創り手を育成する。</p> <p>③ALTやオンライン英会話を活用した英語活動を充実させる。</p> <p>④ユネスコスクール・キャンディデイトとして、ESDの視点で、他地域や他国の学校との連携を図る。</p>		
4	個に応じた教育の充実	<p>①学習履歴等から生徒一人一人の習熟度を把握し、ICT機器等を活用して、生徒にとって「自分に合った教え方、教材、学習時間となる」個別最適な学びを推進する。</p> <p>②数・英で少人数授業を行い、「まなび〜」を充実させ補充学習を推進する。</p>		
5	社会に貢献するための安全・防災教育	<p>①防災キャラバンへの参加、救急救命講習等、地域と連携した活動を通して、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力を育成する。</p> <p>②セーフティ教室等を通し、交通事故、SNSトラブルやサイバー犯罪などの危険を予測し回避する能力を高める。</p>		
6	一人一人に即した体力向上	<p>①授業や行事等で、一人一人に目標をもたせ、体力向上の意欲を高める。</p> <p>②5分間走で主体的に体力向上を図る態度を培う。</p>		
7	主体性を育てる部活動	<p>①本校部活動方針に則り、過度な負担がかからないように活動する。</p> <p>②生徒の主体性を育成し、達成感を味わわせる。</p> <p>③部活動指導員等と連携して部活動を運営し、渋谷ユナイテッドへの移行に備える。</p>		

【基本方針2】 Create
「意欲的に取り組む姿勢」と「創造する意欲」の育成

基本方針2	1	学校行事への積極的な参加	①運動会では、主体的に取り組む姿勢を培い、心身の健全な発達を促進する。
			②学習発表会では、互いの発表を鑑賞し、認め合うことで互いを尊重する態度を育て、集団の力を高める。
			③校外行事では、自らを律し、協力する態度を育て、集団への所属感や連帯感を育てる。
			④入学式・卒業式等の儀式的行事では、学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わわせ、新しい生活の展開への動機づけとなるようにする。
	2	主体的な生徒会活動の推進	①学校生活向上のために主体的に話し合い、合意形成して実践する組織をつくる。
②「鉢山中学校いじめ対策方針」「SNS鉢山ルール」等を見直し、挨拶運動やいじめ撲滅運動に取り組む。			
③ボランティア活動やSDGsへの取り組みなど社会貢献を推進する。			
3	自己の未来を切り拓くキャリア教育の推進	①自己の適性や能力を生かす進路選択ができる能力を育てる。	
		②キャリア講話、職業訪問や職場体験等を通して、望ましい職業観や将来への展望をもち、自己の生き方を探求し、自らの未来を切り拓いていこうとする態度を育てる。	
4	「新たな学び」を切り開く「シブヤ未来科」の推進	①「総合的な学習の時間」では、各教科・領域との連携を図り、カリキュラム・マネジメントの視点で、SDGsに取り組み、持続可能な社会の担い手を育てる。	
		②「My探究」では、「課題設定」「情報収集と分析」「考えの形成」「発信」「意見共有後のさらなる考えの深化」の過程を通して、自らの興味・関心に基づいた探究を行う。	
		③「特別な教科 道徳」では、inspire high等のコンテンツを活用し、考え討議する道徳を実施する。	
		④「学級活動」では、よりよい学校生活を送るために、課題を見だし、話し合い、合意形成し、実践していく過程を通して、探究していく姿勢を育成する。	
		⑤シブヤ未来科での各教科は、教科探究を行う。	
5	地域教育施設と連携した文化・芸術の創造	①各種コンクールやコンテスト等に積極的に参加させ、生徒の文化・芸術面の資質・能力を高める契機とする。	
		②社会教育館、郷土博物館・文学館図書館・美術館等と連携し、本物に触れる機会を多くする。	

【基本方針3】 Communicate 「人権教育の推進」と「互いを尊重する態度の育成」

基本方針3	1	教育活動の基盤としての人権教育の充実	<p>①人権について正しく理解し、自他の生命や人権を相互に尊重し合う態度を育成する。</p> <p>②人権課題等への認識を深め、いじめ、差別や偏見などの人権侵害を許せないとするような人権感覚を高める。</p>
	2	多様性の理解	<p>①様々な違いを認め、相互理解を深め、自然に助け合う態度を育成する。</p> <p>②一人一人の個性を尊重し、ともにより良い世界を築こうとする態度を育成し、「ダイバーシティ&インクルージョン」を推進する。</p> <p>③パラリンピック競技観戦や体験を通して、応援文化を根付かせ、ボランティアマインドを育成する。</p>
	3	思いやりの心を育む 道徳教育の推進	<p>①自他の生命を尊重し、思いやりの心で人に接する態度を育てる。</p> <p>②道徳的価値について、考え議論することによって、理解を深める。</p> <p>③道徳授業地区公開講座等を通して、家庭、地域の人々と共に考え議論することを通して、道徳性を養う。</p>
	4	インクルーシブ教育の 推進	<p>①一人一人の教育的ニーズを把握し、状況に応じた多様で適切な学習を展開する。</p> <p>②特別な支援の必要な生徒には、関係諸機関と連携して、適切な支援の手立てを講ずる。</p>
	5	一人一人を大切に した特別支援教育の 充実	<p>①巡回指導員や関係諸機関との連携を積極的に図り、連続性のある多様な教育の充実を図る。</p> <p>②通常学級と特別支援学級との交流を発展させる。</p> <p>③副籍交流や講演会等、特別支援学校との連携を推進する。</p>
	5	不登校への取組	<p>①「学校へ行くのは楽しい」と思える学校づくりを行い、学校への適応を促し、不登校生徒を出さない取組を行う。</p> <p>②教育相談的手法等を用いて、人間関係形成能力を高める。</p> <p>③不登校生徒には、組織的に対応し、関係諸機関との連携を図りながら、一人一人にとってより良い解決策を見つけていく。</p>
	6	問題行動・いじめ防止 の取組	<p>①自らを律し、よりよい集団や社会を築こうとする態度を育成する。</p> <p>②人権やデジタルシチズンシップ教育を通して、いじめやSNSの問題などに、主体的に話し合い解決していこうとする態度を育成する。</p> <p>③学校生活アンケート等の教育データを活用して、いじめの早期発見・早期解決に努める。</p> <p>④いじめには「いじめ対策基本方針」に則って組織的に対応する。</p> <p>⑤いじめ重大事態には、学校サポートチームを招集して、迅速に対応する。そのため年度当初にチームを発足する。</p> <p>⑥いじめ防止に関する授業と研修をそれぞれ年間3回以上行う。</p>
	7	ボランティア活動やSDGs への取組の推進	<p>①計画的にボランティアの機会やSDGsへの取組を提供し、主体的に取り組ませ、社会貢献への意識を培う。</p>
8	体験活動の重視	<p>①社会体験や自然体験等、体験活動を通して、自己の役割や責任を自覚する活動を重視する。</p>	

【基本方針4】 Collaborate 「コミュニティ・スクール」と「家庭・地域との連携」の推進

基本方針4	1	コミュニティ・スクール活動の推進	<p>①学校運営協議会として、学校運営の方針について承認し、教育活動に対する意見を述べる。</p> <p>②地域学校協働推進委員会を中心に地域学校協働活動を推進する。</p> <p>③学校教育での地域人材や地域教育資源や企業等の活用の仲介を行う。</p> <p>④学校の教育課題について、教職員と話し合い、より良い解決策を探るなど学校教育活動に参画する。(熟議)</p> <p>⑤生徒のキャリア形成や道徳性の育成のため、生徒と話し合いに参加する。</p>
	2	保護者との連携	<p>①共に生徒の健全な成長を願う立場にあることを理解し、教育活動に積極的に参画する。</p> <p>②基礎的・基本的な生活習慣、家庭学習習慣については、家庭の役割の重要性を明確にし、協力を依頼する。</p> <p>③生徒指導に関する保護者への報告は、迅速に行い、誤解をさけるためできるだけ直接会って行う。</p> <p>④Home & Schoolを活用して、密な連携を行う。</p>
	3	地域行事への積極的な参加	<p>①生徒の各行事への参加を促し、地域によって育まれている自覚をもたせ、自尊感情を高める。</p> <p>②各行事へボランティアとして参加させ、地域に貢献する態度を育てる。</p>
	4	近隣小学校、高等学校、大学等との連携	<p>①小中連携の日等を通して、児童・生徒情報を共有するとともに、連携して地域の子供たちを教育していく。</p> <p>②高等学校や高等専門学校と連携を図り、生徒が自らの将来について考える契機を作る。</p> <p>③東大先端科学研、国学院大学、ユネスコスクール支援大学などとの連携を図り、最新の教育的な知見を積極的に取り入れ、探究に資する教育活動を行う。</p>
	5	企業との連携	<p>①MIXI、アルバルク東京等、企業やプロスポーツチームとの連携を通して、探究に資する教育活動を行う。</p>
	6	関係諸機関との連携	<p>①生徒指導では、関係諸機関との連携を密にしていく。</p> <p>②教育機関等との連携を図り、最新の教育的な知見を積極的に取り入れ、本校の教育内容を高める。</p>
	7	広報活動の推進	<p>①学校・学年だより、HP、Home & School等を活用し、教育活動を積極的に広報する。</p> <p>②土曜日授業等の学校公開を通して、学校の様子を保護者や地域へ積極的に公開する。</p>
	8	学校評価の有効活用	<p>①学校評価を有効に活用し、不断の学校改善を行う。</p>

**【基本方針5】 Correct work
「教員の心得」と「働き方改革」**

基本方針5	1	信頼関係を基にした生活指導	①教員と生徒、保護者との信頼関係を確立し、生徒の良さを認め、生徒の自己有用感や自尊感情を高める。
			②基本的な生活習慣を確立し、規律ある生活態度、ルールやマナーについて、主体的に生徒に考えさせる。
			③個々の生徒の心情や生徒相互の人間関係を的確に把握し、いじめや不登校を防ぐ。
			④思いやりの心や自他の生命を尊重する態度を育て、いじめを許さない人間関係づくりの指導を徹底する。
			⑤特別支援校内委員会、いじめ対策委員会等を通して、情報共有を密に行い、課題解決に組織的に取り組む。
			⑥いじめが発生したら、いじめ対策委員会をすぐに発足させ、組織的に取り組む。
			⑦いじめ重大事態には、学校サポートチームを招集して、迅速に対応する。そのため年度当初にチームを発足する。(再掲)
	2	研修及び自己研鑽	①校内研修に主体的に取り組む、OJTを常に意識して、自己の資質・能力の向上に努める。
			②区や都の研修・他校の研究発表・指導教諭の授業・各研究団体主催の研究授業等、外部の研修に積極的に参加し、自らの知見を高める。
			③Teachers Learning Dayを有効に活用し、主体的に自己の資質・能力の向上に努める。
	3	組織的な学校運営への参画	①学校の組織的な運営を常に意識し、自分の役割を自覚して、ベストを尽くす。
			②より良い学校を作るために何を為すべきかを考え、学校運営に積極的に参画する。
			③コミュニケーションを密にして、協働意識をもち、一つのチームとして教育課題に臨機応変に対応する。
	4	サービスの厳正	①区民・都民に奉仕する公務員であることを自覚し、サービスの厳正を期する。
			②公費、私費に関しては、管理をしっかりと行い会計事故を起こさない。また、学校徴収金については、保護者負担の軽減を基本とする。
			③整理整頓に心掛け、個人情報の取扱いに留意する。
	5	働き方改革の推進	①校内業務の電子化や見直し、ペーパーレス化を徹底し、効率的に業務を進める。
			②校務分掌を見直し、学校の実態に即したチームとして機能的に働くことで、一人一人の負担を軽減する。
			③新たに生じた教育課題に対しては、プロジェクトチームを発足して対応する。
			④区のデータベースを活用して教材共有を行ったり、先行研究事例や指導案を活用するなどして、効率的な授業準備を行う。また、Teams等を活用し、宿題回収、採点の効率化を図る。
⑤タイムマネジメントをしっかりと行い、勤務時間を有効に活用する。			
⑥定時退勤(毎週水曜日)を設け、学校閉庁日を増やして、残業時間を軽減する。			